

喘息・アレルギー治療における 患者教育・指導

喘息吸入薬の選択と新しい吸入指導のあり方

近年、吸入ステロイド薬の普及により、喘息死は着実に減少傾向にある。しかしながら、吸入操作が正確に行われないと薬効が十分に発揮されず、吸入指導のあり方の重要性がかねてより指摘されている。吸入療法の標準化に向けて、独立行政法人環境再生保全機構の協力のもと、すべてのデバイスの吸入方法が網羅されたDVDを作成・導入された藤田保健衛生大学医学部呼吸器内科学Ⅱ講座（坂文種報徳會病院）教授の堀口高彦先生にお話をうかがった。

Takahiko Horiguchi



堀口 高彦 先生

藤田保健衛生大学医学部呼吸器内科学Ⅱ講座教授
藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院副院長

名古屋都市圏のアレルギー診療を担う

——地域における坂文種報徳會病院の位置づけについて教えてください。

当院は名古屋駅から車で10分圏内の中核病院として、また藤田保健衛生大学の第二教育病院として、名古屋都市圏の医療を牽引してきました。一方で、地域住民には「ばんだねさん」と愛称され、古くから親しまれている地域密着型の病院でもあります。由来を遡れば、大正時代からこの地で医療救済事業を行ってきた坂家が1930年に当院の前身となる坂種病院を開院したことに始まります。1971年に学校法人藤田学園が大学医学部を創設するにあたり、敷地・建物を無償借用するかたちで「藤田学園名古屋保健衛生大学ばんだね病院」と名称を変更、基幹型研修病院として研修医の教育・育成を担うとともに、各科の第Ⅱ講座を置く研究拠点として機能充実を図りました。

——呼吸器・アレルギー診療の特色を教えてください。

喘息や慢性閉塞性肺疾患(chronic obstructive pulmonary disease: COPD)、環境アレルギー疾患を中心に呼吸器疾患全般において診療してきました。2012年3月には東海地域で初となるアレルギーセンターが当院内に開設されました。当院のアレルギーセンターは呼吸器・アレルギー内科、小児科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科から構成され、各診療科がそれぞれの垣根を越えて積極的に研究会を開催し、すべてのアレルギー疾患に対応できる体制を構築しています。日本アレルギー学会では、前理事長 秋山一男先生の悲願の1つであった「総合アレルギー講習会」を2014年度より開催する運びとなりました。当院では時代に先駆けて「総合的にアレルギー疾患を診療できる医師(total allergist)」の研修環境を整え、アレルギー診療を担う医師の育成を担ってきました。